

## B 自己決定の場の提供

算数科の習熟の時間において、複数用意した課題から児童が選択し、学習を進めた。

### ☆5年生☆「困りの整理」

内容：教師が困りを整理し、個々の困りに応じた学習内容を提示する。

成果：困りの分類をすることで、自身の困りに気付けた。困りが分かれば、**学習の目的が明確**になり主体的な学習に繋がった。

課題：自身の困りに気付けない児童もいた。

→自身が困りに気付けるように、授業毎に**理解度について振り返り**を行う。さらに、教師からのフィードバックがあればより主体的な学習に繋がるとされる。

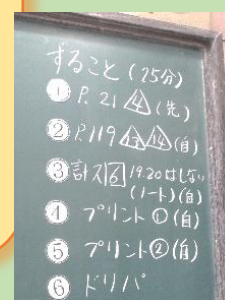
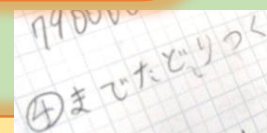
### ☆4年生☆「自由進度学習」

内容：児童が自分の力をふまえ、目標を立て、課題に取り組めるように、課題を難易度順で提示する。

成果：「目標までたどり着いたよ!」「達成できて嬉しい」といった**士気向上**が見られた。目標設定を繰り返すことで、自分の力を理解し、自分に合った目標を設定することができるようになった。

課題：目標を達成したいために、「速さ」重視になってしまい、ミスが多くなっている児童がいた。

→なぜ、間違えたのかを分析するように促したり、児童によっては、**質を意識した目標設定**をするよう指示したりする必要がある。



### ☆3年生☆「パワーアップタイム」

内容：毎週金曜日の6校時を算数科のパワーアップタイムとして設定し、複数の学習コースを用意する

成果：コースを自己選択することで、児童一人一人が主体的に取り組み、特に算数科に対して苦手意識がある児童が**達成感を感じる**ことができ、自信につながった。

課題：主に計算の問題を用意したが、慣れてくると集中が切れる児童が出てきた。

→**児童の実態**を十分見取り、実態に応じて柔軟にプリントを変えなければいけない。

### ～主体的な学びに繋げるための自己決定の場の提供～

→児童自身が「困りの把握」「目標設定と課題選択」「振り返り」をそれぞれ行うことで、課題を自己決定し、**主体的な学び**に繋がりがやすくなる。そのために、教師は、**個の様子を見取り支援する**必要がある。

